

精密成形技術で市場をリード 海外生産を本格展開へ

グローバルニッチトップ 100 選受賞
事業化する力を重視



下中利孝社長

会社プロフィール



本 社 〒737-0012 広島県呉市警固屋 9 丁目 2-28
TEL.0823-28-0121 FAX.0823-28-4326
URL:http://www.sigma-k.co.jp

資 本 金 45 百万円

従 業 員 200 人

事業所拠点 本社/広島県呉市警固屋 9 丁目 2-28、黒瀬工場/広島県東広島市黒瀬町津江 367-72、広島営業本部/広島市南区皆実町 3 丁目 4-37、東京営業本部/東京都新宿区西新宿 7-22-35、東海営業所/愛知県安城市三河安城本町 2-1-4、希格瑪精密機械(江蘇)有限公司/中国・江蘇省丹陽市、(現地法人のみ=インド、タイ)

代 表 者 代表取締役 下中利孝

平清盛ゆかりの「音戸の瀬戸」にほど近い、広島県呉市警固屋に本社がある。「下中工作所」として1937年(昭和12年)に創業し、今年で78年め。広島でも老舗の自動車部品メーカーのひとつだ。

呉という土地柄か、下中利孝社長の祖父・利一氏が旧海軍工廠向けに部品製造を手がけたのが、同社の始まり。そのモノづくりの技術を請われ、戦後は主にマツダ向けとなる自動車部品製造が事業の柱になった。現在ではグループの総売上高が60億円に及び、昨年には同社のレーザー検査装置が経済産業省の「グローバルニッチトップ100選」を受賞するなど、今注目の企業だ。

1社偏重からの脱皮

とはいえ、かつての同社はどこにでもある部品会社だったという。下中社長は当時を振り返り、「何でもできるが、何もできない機械加工屋」と自嘲する。「営業力もなく、開発力もない。お客はマツダとその関連しかない、まさに一社偏重」の会社

だった。89年に33歳の若さで社長に就いたのに合わせて、そんな企業構造の改革を始めた。会社名を現在の「シグマ」に替え、文字通り無限大の可能性に挑む企業ポリシーを掲げた。

その第1弾の改革が“何でも屋”からの脱皮だった。「成形技術」に特化した。ステンレス成形など他社が嫌がる加工技術の強みを生かし、その深化をめざした。シングルミクロン(微粒子領域)の高精度技術を追求し、しかもその技術の複合化にも取り組んだ。これが、現在ではエアバッグやワイパーシステムの精密部品を中心に、約3千点に及ぶ付加価値の高い機能商品揃えにつながった。

四半世紀に及ぶ変革の連続

こうした改革は技術開発の分野だけにとどめず、営業力や人材育成でも果敢に挑んでいる。そこにこそ、同社の「開発した技術を事業化できる強み」の源泉と位置づけ、成長のシーズがあるとみているからだ。90年以來5年あるいは10年単位で改革



メタル部品



樹脂部品



レーザー傷検査装置

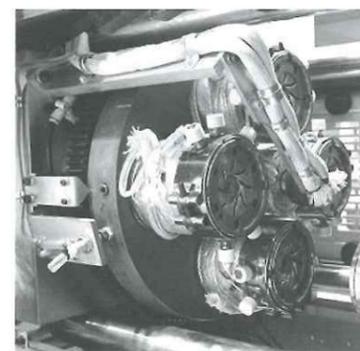
テーマを掲げてきたのも、全社員のベクトルを合わせることで最適の成長を狙う、同社のDNA基盤づくりとなっている。

現在、テーマ改革は第4フェーズに入っている。「人型未来企業」(2010年~20年)と掲げ、「多様な能力を持つ人が集い、生き生きと輝き成長する会社」(下中社長)をめざしている。このため、人材開発の専門部署を設け、外国人の登用を含め人的戦力の強化を急いでいる。

一方、同社はアジアを軸にした海外事業に力を注ぎ始めている。08年3月から生産を開始した中国工場(丹陽市)では近く新工場を設け増産に乗り出すほか、タイで今年9月から、インドでは来年5月から現地生産を始める予定だ。さらに、インドネシアにも生産拠点を整える方針だ。

中国とインドを中核に アジア戦略に着手

100%出資の現地法人として展開する中国とインドをコアに、合弁のタイとインドネシア工場を組み合わせて、日本をマザー工場とした生産ネットワークを構築しようという考えだ。大幅な軽量化、コスト軽減を可能にした高効率な成形機の独自開発など、



アドバンスド成形機

同社ならではの先進技術を次代のグローバル生産体制で生かす戦略だ。

もちろん、その技術力に磨きをかけることも忘れてはいない。山積み的小物部品をランダムにピックアップできる3D視覚システムのほか、検査の簡素化と自動化に役立つ樹脂部品外観検査ビジョンシステムなども独自開発した。さらに、こうした技術力を生かしストアセキュリティ分野への進出も新たな注目事業となりつつある。

「自立して生きていける会社」。確かな技術力と事業化力を研ぎ澄まし、世界市場に打って出ようとするシグマの新たな挑戦が始まっている。



中国工場外観



中国工場 工場内